

## 2 個別事業評価調書

団体名 :与謝野町

事業名	奥ノ谷水路整備事業					
事業の概要	当整備域周辺では近年宅地開発が進み、豪雨時に貯水池としての役割をもつ田畑が少なくなり、開発域下流域においては慢性的に水害が発生している。合わせて、本事業計画区域内にコミュニティ施設が建設されたことにより、本水路に流入する雨水量はさらに増大すると思われる。よって、周辺住民が安心して生活できるようにするため本整備を行うものである。					
	目標時期	平成17年度				
	総事業費	11,343	本年度事業費	11,343	交付金交付額	5,000
事業の必要性	平成17年度には本水路の上流域にコミュニティ施設が建設され、下流の浸水対策として早急に整備する必要がある。					
事業の有効性	総合計画に基づく災害予防対策の推進として、水路等の施設整備を明記している。本水路の上流域にはコミュニティ施設が建設され、下流域の浸水対策として有効な事業である。					
事業の効率性	本整備により、昨年の台風による浸水被害はなく、慢性的に悩まされていた浸水被害が解消され、また上流域のコミュニティ施設と一体的に整備を進めることにより、施行期間の短縮が可能となったことによる事業コスト縮減等、高い効率性を実現した事業といえる。					
具体的な成果	1 府と市町村等との連携に資する成果					
	2 住民の自治意識を高める成果 防災対策としての水路整備であることを周辺住民自らが認識し、さらに上流域の宅地開発や山林等の現状にも関心を持つことによって、自主防災の意識を高めるものとなったと料する。					
	3 リーディング・モデル成果 無騒音側溝を採用し、付近住民に対する生活環境への配慮等が挙げられる。					
	4 広域的波及成果 当該水路は並行する道路の幅員が狭小であったが、開渠から蓋付側溝に改良することにより、道路幅員が確保できた。コミュニティ施設が建設されたことにより、通行利用者も増加することから、交通安全対策としても有効な施策であり、その成果はコミュニティ施設の広域的利用にもつながるものと思料する。					
	5 行財政改革に資する成果 隣接他事業と工期及び作業用町道を重複させたことにより、長期的な通行規制を避け、事業の効率及び期間短縮等の成果が得られた。					
	6 その他の成果					

(記載要領)

- 1 事業ごとに本様式を作成すること。
- 2 「具体的な成果」欄については、できる限り客観的な数値を掲げて具体的に記載すること。